

居場所と人の関わりを連鎖する構成「抜きんでて秀逸」

特集を組むきっかけは、

green market 参加者の「マーケットに自分の居場所ができ、アウエーに感じていた北本がホームになった」という声でした。ここから、「第3の居場所」がその人の暮らしを豊かにする可能性に着目。北本団地シェアキッチン「中庭」で開催する「へりりんCafe」や精神障がい理解を広める「かがやきサロン」、大人も子どももウェルカムな「B」バスケット」などの居場所を取材。「市内には多様な

居場所があり、自分の望む場所を新たに作ることもできる」というこのまちが持つ豊かさを伝える紙面を作成。発行後は、特集に掲載した居場所を訪れる人が増え、「こういう場所があると知って救いになった」「記事を読んで元気をもらった」等の反響がありました。コンクールでは、居場所と人との関わりを連鎖させる構成や言葉の切り取り方、メリハリのあるレイアウトや企画に対する強い意欲などが高く評価されました。

全国広報コンクール審査員講評全文

特集のテーマを「居場所」とした発想がおもしろい。人間にとって第一の生活空間が「家庭」、第二が学校や職場、そして第三が「地域」と言われる。この第三の生活空間がより豊かなことが充実した人生につながる。それを今「居場所」と呼ぶ。「居場所」は市民すべてに共通するテーマであり、さらに、特に問題を抱える人には重要な課題だ。

市民のシンボリックな市役所芝生広場の居場所のほか、団地の中庭や古民家を活用したさまざまな居場所を楽しく豊かに紹介している。その居場所と人間とのかかわりを連鎖させる構成がうまい。ほかの地域でも参考にしたいくなる「居場所づくり」の実例が、地域住民のリアルな言葉とともに、分かりやすく編集されている。

また、雰囲気伝える写真中心のレイアウトと、しっかり文章で届けるレイアウトのメリハリが感じられる。老若男女の笑顔が引き出された写真と、トレンドを意識したデザインから、まちの明るいキャラクターが伝わってくる。また、見出しを追うだけで概要を把握でき、かつ興味をひかれる言葉の切り取り方も秀逸。

十分な取材がされていて、担当者の企画に対する強い意欲や愛着が感じられる点もすばらしい。他に抜きんでた秀逸な作品である。

団地活性化ふるさと納税で支援「高難度な課題が着実に達成」

このプロジェクトに対し、市はふるさと納税を用いたクラウドファンディングで支援。趣旨に賛同した方々から市内外問わず寄附が集まり、目標寄附額を達成。さらに、プロジェクトの経緯を広報したもとへ特集として掲載。また、店舗の改装DIYワークショップを開催し、寄附者や市民にオープン前から関わってもらい、その拠点のファンづくりに繋がりました。

広報企画部門入選の「まちへの参加を創る・発信する 北本団地商店街活性化プロジェクト」は、団地出身・在住メンバーによるまちづくり会社「暮らしの編集室」がUR都市機構や株式会社良品計画、北本市らと連携し、シャッターが続く団地商店街の空き店舗を改装してシェアキッチン&ジャズ喫茶「中庭」、シェアアトリエ「まちの工作室」を団地活性化拠点としてオープンしたものです。



受賞作品に携わった担当者

が商店街にオープンしたことにより、世代や団地内外を問わない新たなコミュニティの繋がりが生まれ、北本団地の活性化に寄与しています。さらには、賑わいを取り戻し始めた商店街への出店希望者が増えており、今後ますますの発展が見込まれています。

コンクールでは、「市民提案型クラウドファンディング事業を通じて、市民のニーズを吸い上げ、幅広な協働作業を生み出し、「自分事」として市民をぐいぐいと巻き込んでいく手腕を評価する。北本団地の活性化という高難度な課題が長期的な取り組みによって着実に達成されている点が素晴らしい」との評価を受けました。

北本団地商店街活性化プロジェクト発のシェアアトリエ



日時 5/6(土)、7(日) 10:00 ~ 16:00
場所 まちの工作室「てと」(北本団地商店街)



日時 5/27(土) 10:00 ~ 14:00
場所 北本市役所芝生広場

受賞作品の詳細はこちら

